

今年の教区の目標

平和は聖なるもの 神のみ旨
絶えざる和解の旅

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2026年6月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第811号 (6月号)

2026年 沖縄慰霊の日 平和メッセージ



カトリック那覇教区
ウェイン・バートン司教

沖縄からの叫び「NO MORE WAR！」

今ここに集った私たちは、81年前のこの日この場に何を思うでしょうか。どこで息絶えたのかも知れぬ家族・親族・友人の在りし日の姿でしょうか。それとも、激しい鉄の暴風にさらされ、焦土と化した痛々しい沖縄の姿でしょうか。あるいは、累々と築かれた遺体の山、空恐ろしいほどの残酷な風景でしょうか。こうした生々しい心の傷を抱えた人は、今はもう少なくなりました。しかし、信じがたいほどの無念を抱いて果てた20万余の死者と戦禍をくぐり生き残った者は、同じ戦場にさまよい、同じ不条理と屈辱を味わい、共に生死の境をさまよい歩きました。その事実とトラウマは、生死にかかわらず決して消え去ることはありません。いま、目を閉じて、その重く深い傷跡に心を向けましょう。そして、その恐怖と苦痛に思いを馳せ、それを少しでも分かち合いたいと思います。いま涙のうちに祈ります。彼らの苦難をともに担う主イエスの十字架の死と復活によって、永遠の安息のうちに憩わせてくださいと。それから、彼らと共に私たちが叫びます。「二度とこの戦争の苦渋を誰にも味わわせてはならない！」と。

戦争は悪

しかし、現在の世界の状況は、最悪の戦乱の危機に立たされています。ガザやウクライナでの戦闘、イランとその周辺の中東各地でのミサイル攻撃などで、何の罪もない多くの人間が殺され続けています。世界中が防衛や主権保護という欺瞞に満ちた理由を掲げ、競うように軍備と軍拡に囚われています。何も生み出すことない兵器、ただ殺戮と破壊のみを目的として造られる武器、戦争に勝つためのみに訓練され、人間性を奪われ消費される兵士たち。こうしたことは、誰が考えても良くないこと、避けるべきことだと分かっているのに誰もこの戦争を止めることができずにいます。しかし、大義名分をつくり、これ以外に道はないかのように装い、防御防衛を声高に叫んでも、戦争を正当化することはできません。死刑をさえ廃止する世界的潮流の中で、どのような人殺しも認められる訳はないのです。正義の戦争などありえず、戦争はどのような形であれ悪です。

平和の途

一切の戦争を無くすためには報復の連鎖を食い止めなければなりません。憎しみの連鎖を断ち切らなければなりません。国土や権益拡大のための侵攻や越境、占領・収奪はもってのほかですが、それに対抗する報復や憎悪の戦いもまた、死と破滅をもたらすばかりです。憎しみからは憎しみしか生まれません。報復は更なる報復しか招きません。その犠牲となるのは、常に弱く小さな者、戦争に加担しない人々です。沖縄は、鉄の暴風、ありとあ

(2 頁へ続く)

らゆる地獄を詰め込んだと言われる戦場の体験を経てもなお、誰をも恨みません。敵をさえ憎みません。若い敵の兵士の不遇をさえ、わが子のここのように思いやりました。沖縄では、争いをもっとも忌み嫌います。戦いを徹底的に避けます。戦争を退けます。非暴力の道を歩み、たとえ自らが傷つこうとも平和の途を選び取ります。

絶対平和希求の精神

想像しましょう。このような理想を実現するために最も重要な事柄を。それは、取引でも、駆け引きでも、外交でも、条約でもありません。「一切の交戦、武装を恒久的に放棄する」ための最も奥深い核心となるのは、”悲痛”です。戦争によってもたらされた”深い深い傷”です。海深くひっそりとたたずむ貝は、痛みをもたらす石などの苦痛の種が体内に入ると、もがき苦しみつつも、取り除くことのできないこの痛みの源を何度も何度も撫でて包み込み、やがて光り輝く真珠へと変えるそうです。この真珠貝のように健気で、誠実真摯なウチナーンチュが生み出した非戦・非暴力の精神は、まさに真珠のようです。戦争の傷跡を恨み辛みや復讐の根拠とすることなく、それでいてその傷を拒み、消し去ろうともせず、この”悲痛”を自らのうちに反芻し、涙しながらこの苦しみを二度と、誰にも及ぼしてはならないと自らのうちに包み込み、その魂を美しい真珠のように輝かせてきました。この沖縄の”絶対平和希求の精神”は、まさに世界の宝、代えがたい秘宝です。

この珠玉の精神を大切に、尊重し、それに学ぶなら、実現不可能と思われる真の世界平和が訪れるでしょう。なぜなら、そのような生き様こそ私たちの主キリストの平和の途へと連なる生き方だからです。

「世界よ、絶対平和希求の精神に学べ NO MORE WAR！」



沖縄 慰霊の日 カトリック那覇教区



6・23 沖縄慰霊の日、平和巡礼

今年の平和巡礼は、40回目の節目の巡礼となります。例年のように小禄教会で共に早朝ミサを捧げ、魂魄の塔まで巡礼を致します。心ひとつにお祈りしながら、巡礼いたしましょう。

巡礼コース

<p>小禄教会聖堂 6:00 早朝ミサ</p> <p>↓ 4.1km</p> <p>翁長コンビニ前 8:10 集合（証言と祈り）</p> <p>↓ 5km</p> <p>8:30 出発</p> <p>グループホーム千寿前 9:40 集合（証言と祈り）</p> <p>↓ 4.2km</p> <p>10:00 出発</p>	<p>ひめゆり会館駐車場 11:00 集合（証言と祈り）</p> <p>↓ 1.4km</p> <p>11:20 出発</p> <p>魂魄の塔 11:50 集合（平和の集い・司教メッセージ）</p> <p>12:30 解散</p>
---	---

※ 各自の都合に合わせて途中参加できます。
※ 多少時間がずれることが予想されます。
※ 解散後の帰路は各自で確保されてください。

WE-85 Cursillo Three-Day Weekend Retreat, Okinawa May 2026

By: Russell Davis – Cursillista

The Diocese of Naha's Okinawa Cursillo lay ministry held a "Cursillos de Cristiandad" Three-Day Weekend retreat May 14-17 at the St. Clara Monastery in Yonabaru. This was the 85th women's Cursillo retreat in Okinawa.

The first Cursillo retreats in Okinawa were held in 1972. They were presented in Japanese to Japanese speakers. The recent weekend was presented in English, but for the benefit of several Japanese-speaking participants, made use of the translating skills of several women and three priests, as well as new artificial intelligence translation technologies. Nineteen women from a wide variance of cultural backgrounds and faith life histories were led by a team of ten Cursillistas--women who've previously experienced a Cursillo Three-Day Weekend. One leader came from mainland, as did the retreat's spiritual director, Father José Ramon Rubio. Father José himself is a Cursillista and credits the movement with leading him to priesthood.

Much of the language used within the Cursillo method and its retreats comes from the movement's origins in Spain. "Cursillos de Cristiandad" means "short courses in Christianity." The weekend retreat provides participants an opportunity to learn and discuss how one authentically lives a Christian life. Short talks are presented by Cursillistas and the Spiritual Director. Mass is celebrated daily and meals taken in common. As always, the Saint Clara Monastery offered a beautiful and serene site for the Weekend and the Sisters were ever so lovely with their accommodations.

Each day of the Weekend presents a different encounter for deepening one's faith. The first day presents an encounter with oneself for examining what is fundamental to Christian faith--a life of grace where one's whole life is directed to God. The second day presents an encounter with Jesus Christ and how through grace we can better know and imitate him, our Brother and merciful Savior. The third day presents an encounter with others and how to live for Christ in our local environments or live for Him in a community. The Cursillo helps us to better know, love, and serve Jesus. One woman aptly described the Weekend as a "crash course in Catholicism." And all of this is accomplished by placing the women in a holy environment that, for a short time, is removed from work and family responsibilities, errands, telephones, and daily chaos, such that they can enjoy a few days of encouragement and growing closer to God.

Behind the scenes a dedicated team of faith-centered Cursillistas prepared meals and materials to share with the Weekend participants the same outpouring of love they once received during their own Cursillo Weekend experience.

When the Weekend retreat was completed, 19 new Cursillista sisters returned to their home and work environments, but having grown closer to God and having been given the Cursillo Method for living authentically Christian lives, and through friendship, sharing with others the Good News of our Lord.

Okinawa Cursillo is now making plans for men's and women's retreats in the autumn.

De Colores! (The Colors!)



Image May 17, 2026, St. Clara Monastery chapel: while describing how her life is affected with the help of the Cursillos de Cristiandad Three-Day Weekend retreat, a participant shares a laugh with Father José Ramon Rubio

2026年5月 拡大司祭・助祭会議 議事録

日時: 2026年5月12日(火) 10:00~12:00 場所: 安里教区センター

※司祭会議に先立ち、帰天されたロドニー神父のお父様のために、午前9時30分より追悼ミサが捧げられた。

開式の祈りはウェイン司教、司会はヨアキム神父が担当した

1. 報告及び連絡事項

(1) 前回議事録について

4月度会議議事録について新田氏より報告がなされ、承認された。

(2) 司教・司祭不在予定

(3) 任命書授与・人事関係

コザ教会に着任した大西神父に対し、ウェイン司教より任命書が授与された。また、カプチン会の人事異動に伴い、与那原教会へ異動したデニス神父、普天間教会へ異動したクレーバー神父、真栄原教会へ異動したナビーン神父についても、それぞれ任命書が託された。

(4) 議事録担当の引継ぎ

議事録作成については、新田氏から大西神父へ引継ぎを進めるため、当面は両方で記録を取りながら移行していくことが確認された。

(5) 韓国の司祭団来訪について

5月25日から29日にかけて、広島教区を通じて韓国の司祭4名が那覇教区を訪問予定であることが共有された。

(6) 谷名誉司教からの冊子寄贈

谷名誉司教より、執筆された冊子『都に上る歌』の寄贈があり一部ずつ配布された。希望する小教区は教区事務局へ問い合わせるよう案内がなされた。

2. 審議事項

(1) 教区追悼ミサについて

会議前に捧げられた追悼ミサについて、「本来は司教主式が望ましいのではないか」との意見が出された。これに対し、司教がロドニー神父に司式を委任した形であるため問題はない、との見解が示された。また、ウェイン司教より、原則として司祭の親族が亡くなった場合には、その司祭本人に司式を委任する方針であるが、教区の追悼であることとしとして司教も登壇することが共有された。

(2) 2026年慰霊の日 平和巡礼について

継続審議となっている慰霊の日平和巡礼について協議が行われた。参加者の高齢化や減少傾向を受け、新しい実施方法も検討されてきたが、今年は40回目の節目でもあることから、従来通りの形で実施することが確認された。

実施概要: ①小祿教会にて午前6時より平和祈念ミサ ②平和巡礼午前7時出発

③午前11時30頃~魂魄の塔にて祈念集会 正午に県民黙祷 解散

担当者等 会場準備: マキシム神父

ミサ典礼: マイケル神父

平和巡礼: フランシス神父、ヨアキム神父

パンフレット: 教区事務所

暑さが予想されるため、熱中症対策を十分に行う必要性が確認され、さらに若者の参加を促していきたいとの意見が出され、教区全体で協力して呼びかけを行うこととした。また、押川司教より、「沖縄の司祭自身が主体的に参加することの重要性」が強調され、来年以降の実施形態については継続して検討することとなった。

(3) 教区の日について

2月11日の「教区の日」の在り方について協議が行われた。現在の形式が、司祭叙階・修道誓願の周年祝賀や結婚50周年祝賀を中心とした「お祝い行事」になっていることに対し、教区の日本来の意味を改めて見直す必要があるのではないか、との問題提起がなされた。教区の日は本来「那覇教区誕生」を記念する日であるが、その教会を構成する司祭・修道者・信徒を含む教区全体の歩みを祝う日であること、また、那覇教区成立の歴史的経緯についても共有され、教区独自の歩みを踏まえた祝い方を今後検討していく必要性が確認された。ウェイン司教より、今後に向けて小委員会を設置し、教区の日在り方を再検討していく方向性が示された。

(4) 外国籍司祭の年金制度について

外国籍司祭に関する日本の年金制度について情報共有が行われた。

(5) 司教予定

5月17日: 具志川教会創立40周年記念ミサ

5月23日~24日: 宮古平良教会ミサ主式

5月30日~31日: 石垣教会ミサ主式

次回会議 次回拡大司祭・助祭会議は、6月2日(火) 10:00 より安里教区センターにて開催予定。なお、ポスコ神父のお父様のための教区追悼ミサを同日午前9時30分より行う。

2026年5月19日 承認: ウェイン・フランシス・バートン司教 記録: 新田 選

「ペトロ神父様叙階70周年、Sr.ルチア中村睦子先生の米寿」を祝して 感謝の集いコンサートが開催されました

聖母月である5月吉日、お二人への「感謝の集いコンサート」が安里教会で150名余の観客の下、御聖堂で盛大に行われました。海星小学校創立者であられるペトロ神父様は来年カジマヤーを迎える95歳となり、めでたく叙階70周年の記念すべき年となります。また、Sr.ルチア中村も同じく海星小学校で教職として音楽指導、そして校長としてご活躍なさり、88歳の米寿を迎えることとなります。さらには、当時のSr.中村は、「いしがき少年少女合唱団」の育成にも尽力し、たくさんの教え子たちを音楽の道へと誘いました。コンサートの出演者のみなさんは、海星小やいしがき少年少女合唱団卒業生で構成され、お二人のお祝いに賛同し、全国から感謝の集いの開催に駆け付けた次第です。

実行委員会代表の出口康代(海星小卒1期生)にエスコートされ、盛大な拍手の中で入場したお二人は、祭壇前のグランドピアノの最前列に着席されてコンサートが始まりました。トップバッターは1期生のオペラ歌手森山京子が「アメージング・グレイス」迫力あるメゾソプラノの声を御聖堂に響かせました。

続いて、新垣好美のヴァイオリンによる「星に願いを」、元やなわらばーの石垣優による歌「ゆくい」、内原ちひろのマリンパ「愛の賛歌」とジャンルを変えての楽しい演目が続きました。また、同じくマリンパと打楽器カホンによる玉城姉妹の「情熱大陸」は会場全体がノリノリの手拍子で大変盛り上がりしました。続いて、CMソングでお馴染みの成底ゆう子による「ダイナミック琉球」は会場全体が一つになりました。冒頭「Sr. 中村から歌手を志す時に頂いたロザリオを励みに音楽の道を歩んでいます」と言うあいさつには、会場のみなさんも感激していました。

さらにSr.中村が作詞した合唱曲「海」を有志全員で歌う姿に大変感動していました。演奏者みんなで「ユーレイズミーアップ」を歌い、最後には、長浜健佳の三線による「ていんさぐぬ花」では、会場全員で歌いフィナーレとなりました。

コンサートで印象的だったのは、調子を崩していたペトロ神父様が手拍子でリズムを取って演奏を楽しんでいたこと、合唱曲「海」を聴いているSr.中村の涙が止まらず感激していたことです。



コンサート終了後に卒業生を中心に開催した茶話会は、残念ながらペトロ神父様は体調を考慮して先にお帰りになりましたが、Sr.中村は挨拶で『私は葡萄の木、あなたたちは枝である』と聖書のことばを切り出しました。

「海星小学校で育ったみなさんが今日の演奏会で一つになっている姿を見て、葡萄の木のような絆を感じ、まさに聖書のことば通りにお互い遠く離れていても一本の木のように繋がり、繋がった中で多くのみなさんの人生に幸せが訪れ、意義があることを実践してくれました。今日の演奏会にたいへん感激し、これ以上の満足はありません」と感謝のことばを述べていました。




最後に実行委員会代表の出口康代は、「ペトロ神父様とシスター中村お二人から私たちに小さな種を蒔いてくれて恵みの水と太陽を頂いたことで、たくさんの花を咲かすことが出来ました。お二人からの教えとご恩を胸にこれからは私たちが種を蒔く人になります。お二人もまだまだお元気で私たちを導いて下さいませよう益々のご健康をお祈りします」と締めました。最後に安里教会と教区スタッフには、御聖堂やホールに関する準備やグランドピアノ移動等の調整を含め、ご理解とご協力を賜り、大変お世話になりました。誌面をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。(石垣カトリック教会 平良守弘)



第57回・サマーキャンプ那覇教区・2026年
Naha Diocese Summer Camp 2026

聖フランシスコと共に：平和の道を歩む
*Together with St. Francis;
Let us Walk the Path of Peace*



小学生
7月31日(金) - 8月2日(日)
Elementary: July 31 - August 2

中高生
8月7日(金) - 8月9日(日)
Junior & Senior High: August 7-9


「南の光明」新誌名 公募のお知らせ

教区報「南の光明」は、これまで皆さまと共に歩みながら、信仰の恵みを分かち合う媒体として親しまれてきました。このたび、さらなる歩みの中で新しい時代にふさわしい誌名を求め、公募を行うこととなりました。これからも主に導かれながら歩いていく教区報となるよう、皆さまの想いのこもった名称をお寄せください。

【応募方法】

- 郵送の場合
宛先：〒900-0005 沖縄県那覇市天久1丁目8-7
カトリック文化センター 宛
以下の内容をご記入のうえ、お送りください。
① 新しい誌名 (タイトル)
② その誌名に込めた思い・理由
③ 所属教会・氏名
- インターネットから 以下のフォームよりご応募ください。
URL
<https://forms.gle/HYuEsKLTyG8kffy16>

QRコードを
読み込んでください→




**30分間傾聴
スペース**
(30min.of Listening space)
お待ちしております！



開催日：6月21日(日)
時間：14:00～16:00

カトリック文化センター (☎098-868-4649)



NPO 法人ぶどう園の会
訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001
住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
・営業時間 8:30～17:30
・営業日 24時間365日(緊急対応含む)




葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp



～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬典社

*創業30数年・・・。
*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂



てんごく
☎098-853-1059

